

平成14年度(第16期)事業計画書  
(自平成13年10月1日至平成14年9月30日)

1. 普及啓発事業

.当財団の資格認定講座の開催

食養士養成講座の開催

初級コース

(目的)高齢化社会の中で、健康に不安を感じている人が急増しています。そこで、食と環境をテーマとするカリキュラムを構成し、地域の健康づくり、環境づくりを推進するリーダーを「食養士」として位置づけ、食養士の養成を目的とした講座を全日本健康自然食品協会の後援をいただいて開催します。

(対象者)一般市民及び食関係に従事している方

(開催頻度)6ヶ月の通信教育制

現在まで第3回まで修了し資格者は356名

管理食養士コース

(目的)食養士の上級コースとして、より専門的な学科を構成し、食と環境のスペシャリストを養成することを目的とします。

(対象者)初級コース修了者もしくは栄養士の資格保持者

(開催頻度)6ヶ月の通信教育制

環境管理専門講座の開催

(目的)ISOが普及している中で、環境管理の概念及びその考え方や手法について広義の側面からの知識習得を求める声があることから、専門講座を開催して参ります。

(対象者)環境管理に興味のある方

(開催頻度)年3回程度

.環境対策推進委員会の充実

環境対策推進委員長である門馬義芳理事を中心に委員会を定期的で開催し、情報交換を積極的に行い、委員の公的な活動内容等についてはアーシアン等で取り上げ、組織の充実をはかって参ります。

.展示会の開催

環境庁主催の「エコライフフェア」への参加や、地方自治体や諸団体が主催するイベント等に積極的に参会し、普及啓発の推進をして参ります。

## 2. 出版事業

### .「アーシアン」の発行

環境保全情報や環境教育を柱に編集を行い、親しみやすくわかりやすい情報誌として発行して参ります。

### .「地球環境研究」

地球環境財団研究奨励金における研究成果を中心に編集し、専門誌として発行して参ります。

## 3. 助成・協賛事業

### .研究奨励金

第16期は第13回目となる研究奨励金の実施となります。第13回は58件の応募があり、広く社会に普及されてきました。今期も学術振興、社会発展に寄与すべく研究奨励金を支給して参ります。

### .その他の助成

「信州緑を守り育てる会」への植樹募金を募り、助成を行い、植樹場所は「財団法人地球環境財団戸隠国有林植林地」として植樹を行って参ります

### .日中友好桜園への協賛

2002年は日中友好30周年の佳節を迎えます。また2008年のオリンピック開催開場が北京に決定をみたことにより、日中友好関係を更に大きく深めるために、桜園の建設を企画し、北京市人民政府華僑委員会と協力して桜園の建設に尽力して参ります。

## 4. 調査・研究事業

### .ILUCC(土地利用・被覆変化)研究所。

(名称): ILUCC

(所長): 北村貞太郎(京都大学名誉教授)

(活動): Emailを中心に国内外への情報発信、情報収集を行います。

シンポジウムの開催。

### .環境情報研究所の設置

(目的): ITを機軸として多岐にわたる情報システムをNTTデータ、東京大学大学院環境学専攻等の共同で開発し広く社会に寄与することを目的とします。

包括的環境モニタリングシステム(豊かな住環境・自然環境を目指して)

ITとコミュニティ支援による次世代農業システム

等のテーマでの研究開発を進めて参ります。

(所長): 板尾清(東京大学教授、工学博士)

.その他、環境基本計画の策定などの調査委託を行います。

5. ISO 審査登録事業

昨年度より、ISO9000S 及び 140001 の審査登録機関として準備を進め、昨年度の実績として IS9000S では 8 社、ISO14001 で 1 社審査を行いました。今年度は、JAB への認可対応を進めて参ります。

以上